

Claude Fable 5.1 時代の知財業務：自律型エージェントへの進化

2026年9月公開のClaude Fable 5.1は、AIを「一問一答の補助ツール」から「長時間自律して走るエージェント」へと進化させました。コストの劇的低下と分析能力の向上により、知財実務の8割を自動化する道が開かれる一方、人間による検証とガバナンスの重要性が増しています。

Fable 5 (2026.6)

一問一答の補助ツール 短時間タスク



従来の知財実務

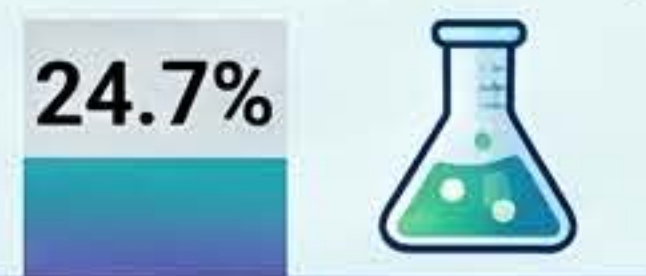


人間中心のドラフト作成、中間処理、調査

業務自動化 (AutomationBench)



科学研究 (Terminal-Bench-Sci)



キャッシュ読取価格
(1M tokens):
\$1.00

膨大な特許文献の反復読込が経済的に負担

Fable 5.1 (2026.9)

長時間自律エージェント 数時間～数十時間の無監督タスク



膨大な特許文献の反復読込が経済的に可能に

実効コストの最大
45% 低減

キャッシュ読取価格
(1M tokens):
\$0.25



膨大な特許文献の反復読込が経済的に可能に

業務自動化 (AutomationBench)



業務自動化指標が17.1%から31.4%へ向上。

科学研究 (Terminal-Bench-Sci)



24.7%から52.6%へ躍進し、タンパク質設計や化学分析などの高度なR&D連携が可能に。

新しい知財実務



中間理由応やIPランスケープ

中間処理・IPL初稿の「一括自動生成」

拒絶理由対応やIPランドスケープの初稿を一括で自律生成する運用へ移行。



高度なR&D連携

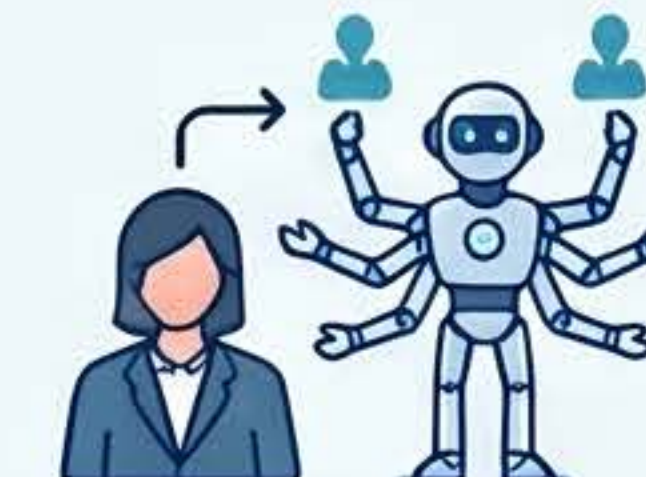
知財実務の変容とガバナンスの要諦



人間による「出典検証」の重要化
正答率向上の一方で誤答時も回答を試みる傾向が強まり、段落番号レベルの検証が必須。



「自然人の貢献」の記録・立証
AI発明者が認められない法理境下では、AIとの対話プロセスを記録し人間の関与を証明する運用が不可欠。



新たな役割へのシフト
実務者はAIの監督者、戦略立案者としての役割へ。ガバナンスと戦略的活用が鍵。